

「予備自衛官になりたい！」



神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 高田 充）は、6月29日（日）、神奈川地本本部において平成26年度採用者予備自衛官補41名に対し、辞令書を交付するとともに予備自衛官等制度説明会を行った。

辞令書を受領した予備自衛官補は「宣誓書」を読み上げた後、予備自衛官等制度、訓練前の準備事項等の説明を受け、平日一般開放している1Fの広報センターを利用し、予備自衛官補の広報用DVDを視聴した。

最後の質疑応答では、「訓練の申し込み方法」や「訓練期間中の団体生活」等について、次々と質問が飛び出し、教育訓練招集への出頭意欲をうかがわせた。

一般の採用者は、「国に貢献したい」と思い志願した。厳しい訓練でもそれを乗り越えて、予備自衛官になりたい」と意気込み、また、弁護士をしている技能（法務）の採用者は、「法律家として研鑽を積みつつ、専心教育訓練に励み、予備自衛官となり公共に奉仕することを目指したい」など抱負を語っていた。

神奈川地本は、「今後、予備自衛官補の訓練時を利用して激励を行うとともに、身上把握に努め、訓練参加への不安を取り除き、教育訓練の出頭促進を図る」としている。

「総合的な学習の時間」 報告会

神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 竹崎一陸尉）は、7月1日（火）、県立横浜清陵総合高校で行われた「総合的な学習の時間」報告会に参加した。

学生達は、施設見学や職業体験で学んだことをグループに別れて報告した。海上自衛隊厚木航空基地第4航空群の「総合的な学習の時間」に参加した学生の発表では、「自衛隊イコール堅苦しいと思っていたが隊員の中にはおもしろい方もたくさんいてイメージが変わりました」、「思った以上に女性自衛官の方が活躍しているなと感じました」、「P-3Cの機内に入ることができて貴重な体験をしました」など様々な感想が聞かれた。

横浜中央募集案内所は、「総合的な学習の時間」を通じて、より多くの学生に自衛隊を知ってもらい、将来の職業選択肢のひとつとなるよう今後も積極的に支援していく」としている。



「総合的な学習の時間」報告会の様子